第４号

にいはお

中国語を学ぶ会
平成１１年１月発行
連絡先　０４６３－３３－３１７７
神山　FAX　３２－５５９４

謹賀新年

明けましておめでとうございます。

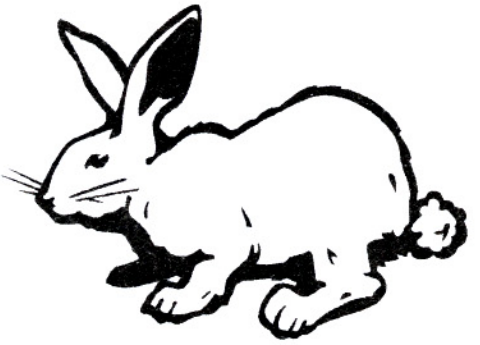
皆様にはお健やかに希望に満ちた新年をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

昨年は世界的な規模の経済不況に見舞われ、国内でも様々な凶悪事件や災害の発生、大企業の倒産、金融界・財界の不祥事などあまり良い年ではなかったような気がいたします。

新しい年、１９９９年こそは安心して暮らせる平和で豊かな年に、そして各個人が健康で幸せな生活が送れる希望と躍進の年でありたいと念じております。

今年の干支は「卯」つまりウサギ年。卯年にあやかりウサギのように跳ねる年、高くジャンプする飛躍の年に、そしてあの耳のようにアンテナを長く伸ばして色んな情報を素早くキャッチしたいものだと願っております。

私たち「中国語を学ぶ会」も中国語の学習という共通目標を通じて友誼を深め、より高い学習成果を目指して頑張りましょう。



日中両国の“姓”を考える

林　怡州

よく初級のクラスで、中国語の自己紹介の練習をしますが、練習をする度に、日本人の苗字の多さに　驚きます。殆ど同じ苗字の方がおらず、生徒さんの苗字を覚えるのに、一苦労でした。

中国は12億の人口を擁していますが、同じ苗字の人が多く、姓の数は日本と比べて極めて少ない。『絵図百家姓』という本には、564の姓が記されており、そのうち、二文字の苗字は30ぐらいしかありません。現在、中国の苗字の数はおよそ1,700前後あります。なかには、多い順で300までの苗字は漢民族の総人口の98.5%を占めています。

日本に来る前に、日本人の姓は鈴木、加藤、田中、高橋といったぐらいだと思っていましたが、すぐその間違えに気づきました。まず、初めて会う方に「初めまして、○○です。どうぞ宜しくお願い致します」と言われる度に、一日も経たないうちに忘れてしまうのです。なんと言っても、日本人の苗字は長い。文字数でなく、訓読みで発音しだすと、なかなか覚えられません。

しかし、私にとって覚えやすい苗字もあります。とりわけ動物に関連するものです。例えば、亀田、鳥居，猪木、牛尾などがそうです。何故なら、中国人は漢字を表意文字と考えているからです。笑い話ですが、小学生の頃、孫文と関係の深い犬飼毅の歴史本を読んだ時、一瞬こんな立派な方が、どうして犬に育てられたのかという疑問を抱いた記憶があります。また、数年前にアメリカのスペースシャトルに乗って，亡くなった日本人の宇宙飛行士がいました。その方の名は、なんと鬼塚！！「鬼」プラス「お墓」、あまりにも縁起の悪い苗字と感じました。

私は日本に来てから、国土はそれほど広くない日本では、日本人が四季の美しさを楽しみ、自然を大事にする民族だと気づきました。第二次世界大戦中、アメリカは日本についてより深く知る為に、文化人類学者のベネディクト博士に研究を依頼しました。そして、彼女は有名な『菊と刀』という本を書いたわけですが、その中に「日本人は自然を愛する民族である。」と指摘しました。日本人の苗字を取ってみますと、殆ど大自然と関係があります。山、水、川、木，石、田、藤など枚挙にいとまがありません。確かに日本人の苗字は覚えにくいですが、中国人と比べると非常に便利なところもあります。それは電話帳を調べる時です。姓の数が多い為、素早く調べられるからです。韓国の電話帳は、どのように調べるのか、興味津々ですね。皆さん！自分の苗字の由来を考えたことがありますか？

中国は、ハオよりホウが、多数派で

星期二班　紀伊康夫

題名は私の考えた川柳である。私は６年前から中国語（北京語）を我流で勉強していて、今年の春から平塚の中国語学校へ通い始めた。始めると北京語をあまり知らないくせに他の中国語にも興味を持ち始めて、家で台湾語、広東語の本も読んでいる。

それだけでなく、福州人や客家人に会うと福州語で“你好”“谢谢”は何んて言うんですか？と聞いてメモに書き留める。

面白いことに、北京語の“好”ハオは、台湾語、福州語、客家語、上海語では、みんな“ホウ”である。声調の違いはあるかも知れないけれど。現在は、中国では北京語が標準語（普通話）になっているけど、昔の中国では、好きの事を“ハオ”と言うより“ホウ”と言う方がポピュラーだったんだと思い、感じたままに、５・７・５の川柳にまとめて見た。

６年前、テレビを見て中国語の勉強を始めた時には、中国と日本では漢字の解釈、使い方が違うのを知ったが、台湾語、広東語、客家語に、一部の漢字の意味が共通してたり日本の漢字の訓読みと、客家語が同じであったりする。私は改めて日本語って何だと考えて見た。日本語とは、中国の北から南、西、東、昔の言葉、今の言葉、つまり古今東西の言語をぶった切って寄せ集めた言葉だと思うようになって来た。このように、私は中国のいろいろな事を勉強する事が大変面白く思う。

・・・・・あとがき・・・・・

私の１１月の台湾旅行が、初めての中国旅行である。（台湾と中国は違うかも知れないが台湾も中国も同じ北京語の国と考えて）であるから、地元の中国人の生活を見ていない。私が観光ガイドブックを読んで、自分の想像が付け加わり、気付かないうちに間違った発言をしているかも知らない。

地元へ行った方で、それは違うと思う箇所があれば、どんどん教えて欲しく思います。

一つ気づいた事は、私はある知り合いの話や観光ガイドブックの内容から、餃子の発音ギョウーザは客家語だと発言した。

ある人は、ギョウザは広東語だと言う話も聞いた。私が間違っていて、その人が正しいのかも知らないし、黄河下流から南下した客家人の客家語には広東語が外来語に入っていると言う話もあるので、両方正しいのかも知らない。

中国の事は、その地域から来た人の話を素直に直接、聞くことが一番いいと思う。

アカシアの大連・旅順訪問記（2）

星期三班　野中矩仁

＜前号に引き続き´97年に訪中した時の旅行記を掲載します。＞

（6）労働公園　（旧中央公園）

大連駅前から真っ直ぐ南に1キロぐらい行くと右手に見える大きな公園である。かっては日清、日露の戦死者を祭る忠霊塔があり、私もお参りした記憶があるが勿論今はない。

現在は緑の多い公園になっており、野球場、サッカー場、テニスコート、野外劇場等があり市内最大の公園である。春は桜の名所になるそうであるが、5月下旬はアカシアの花が真っ盛りであった。アカシア祭りもここがメイン会場になるとのことであるが，参加する余裕がなかったのでその様子は分からない。

公園のすぐ南側の小高い山（緑山）の上には、新日鉄の協力によって1989年に建てられたテレビ塔がある。テレビ塔下のレストランで昼食を取ったが、ここから見る大連市街の眺めは素晴らしかった。

（7）アカシアの大連、ファッションの大連

清岡卓行の小説に「アカシアの大連」と言うのがあったが、中国人女性ガイドによると「アカシアの大連、ファッションの大連、魅力あふれる港町、そして青リンゴの町」とのことである。

5月下旬から6月上旬にかけてはアカシアの花が満開であり、その清楚な白い花と好い香りは確かに素晴らしい。しかも大連から旅順にかけては街路も山も緑の葉っぱと白い花とのコントラストに彩られ、「アカシアの大連」と言うのも尤もだと思った。

このアカシアの木は帝政ロシアが大連建設当時はるばるウラルから運んできたそうであるが、その後どんどん増え大連のシンボルとなっている。

ファッションについては日本のテレビでも放映されたが、モデル学校がありファツションショウもしばしば行われるという。また毎年8月末にはファツション祭りが開催されるとのことで、確かに町を行く女性のスタイルは良く、服装も履物もしゃれた女性が多く、店を覗いても女性の服は色とりどりで豊富である。それにくらべ中年以上は男女共やぼったい。

（これは私だけの感想ではなく同行の人たちの一致した意見であった）

アカシアはロシア人が持ち込んだのに対し、リンゴは日本人が持ち込んだそうである。即ち戦前の関東州庁技術師渡辺柳蔵氏が持ち込み育て上げた結果、大連地方の特産物となったのである。

（8）星海公園（旧星が浦）

大連駅から南西の方向約6キロの所にある戦前の満鉄が開発した海浜リゾート地である。ここにも子供の頃行った記憶があるが、昔の通りチンチン電車が大連駅からここ迄走っていた。途中にある競馬場にも亡父に連れられて行った記憶があるが今は残っていない、現在の中国ではギャンブルは認められていないからである。

昔泳いだ記憶のある海岸は5月末では泳ぐ人もいなかったが、それでも結構観光客は多く、遠足と思われる小学生やアベックやお年寄りなど色とりどりであった。

（9）老虎灘

3 大連駅から南東7キロぐらいの所に在る景勝地である。かって大連に住んだ同行の人によると、子供の頃市街地の自宅からマーチョ（馬車）に乗ってここに在った別荘に遊びに来たそうであるが、戦前の日本人の高級別荘地だったのであろう。

人魚を襲った虎と戦い人魚は助けたが、自分は力尽きて死んでしまったと言う伝説を生んだこの地の公園には大きな虎の石像があった。

我々の一行が宿泊した麗景大酒店（リージェントホテル）は、こ老虎灘を見下ろす丘の上に在り窓からの見晴らしは非常によかった。

外国人相手のホテルと思われ、宿泊費もドル建てで書かれており（1泊１００ドル)、フロントは勿論食堂やルームメイドでも英語が通ずる人が多かった。またフロントには日本語が分かる人もいた。

（１０）ビルラッシュ、建築ラッシュの大連

戦前と異なり４０～５０階建ての高層ビルもあちこちに在り，更に現在建設中の高層ビルも多い。街中はどこへ行っても工事中で楽屋裏が丸見えの舞台のようであり、新旧のビルが入り乱れている。同行の一人が「あんな造り方で大丈夫かなあ」と言っていると、中国人ガイドが「大連は地震がないから大丈夫です」と言っていたが、大連は今まさにビル建築ブームである。しかも長方形のビルばかりでなく、円筒形を重ねたようなビルや白黒のビルなど色とりどりである。後5～10年もすれば香港のように高層ビルが立ち並び、しかもきれいな街に変身するのではなかろうか。　日本の大都市と異なり、我々にとっては懐かしいが先にも述べたような日本時代の建物（埠頭ビル、大連駅、大和ホテル、三越、満鉄本社や社宅、大連病院や日赤など）が数々残っており、ことに一般民家は古くて汚い物が多い、従って一歩裏通りへ入ると昭和20～30年代の東京や大阪の下町を思い出させるし、道路の舗装や歩道の整備などが不十分で社会資本の遅れが目立つ。

（１１）信号は有っても無きがごとしの大連市街

社会資本の遅れもあってか車（中国では汽車と言う、日本で言う汽車は火車である）やバスは東京並に多いにもかかわらず街中に交通信号が少ない。従って歩行者は車の中をぬって横断し、車は人をぬって走り去る。

それが習い性となっていると見え信号機のあるところでも、人も車も信号無視である。小生はつい青になったから安心と思って渡ろうとすると、車が遠慮なしに突っ込んで来たので大慌てで逃げた。しかし警官がいる交差点などでは、さすがにきちんと信号を守っていたので中国でも警官は効き目があるなと思った次第である。

こんな有様では交通事故も多いのではないかとガイドに聞いたところ、お互いに気をつけているし、車もスピードを出さないから事故は意外に少ないと言う答えが帰ってきた。同行の人達の中には街に出た時には中国人の後について渡ったと言う人もいたが、確かに見ていると中国人歩行者の渡り方は慣れており上手である。

（１２）チンチン電車もトロリーバスも運転手は女性

日本でもバスの運転手に女性を見掛ける事がたまにはあるが、大連ではチンチン電車とトロリーバスの運転手はオール女性である。ただし普通のバスと二階建てのバスの運転手は男性である．何か規則でも有るのかとガイドに聞いたが、何も規則はない何故か分からないがそうなっていると言う答えであった。架線の有無で運転の自由度に差があるのが分かれ目になったのかもしれないが、専門家に聞いてみないと分からない。

物は試しといずれにも乗ってみたが、いずれも古くて汚く座席も木製でまさに硬座であった。しかし運賃は安く市内均一料金で電車とトロリーバスは５角（０．５元、日本円で７円５０銭)、バスと二階建てバスは１元（１５円）であった。男性運転手の乗り物は運賃が高いのかなと思った次第である。　なおチンチン電車の車両は全て日本時代のものとのことで、その意味でも懐かしの乗り物であった。

（続きは次号に掲載します）

犬　の　話

星期三班　五十嵐真美

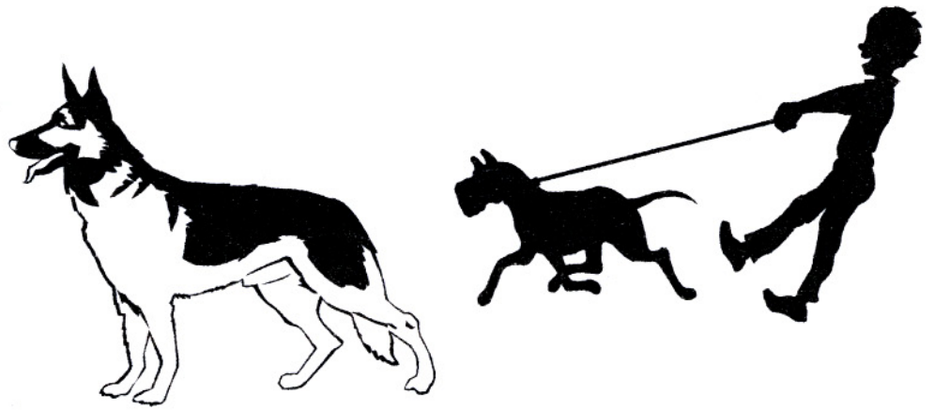
犬は昔から人間に対して深い信頼感と愛情を寄せている。人間の役に立ちたいと願い、人間が喜んでくれる事を自分の喜びとしている愚直なくらい誠実な動物である。

先週、横浜に移転､新設なった盲導犬訓練センターの見学に行って来た。レストランやホテル、商店などでは犬というだけで断られる事が多いということで、まだまだ盲導犬に対する無知、無理解から誤解も多いようだ。小さい時に犬にかまれた、追いかけられたというマイナス経験から犬嫌いになる人は多いが，それも犬への接し方を学んでいれば避けられた事だろう。仕事中の盲導犬をかまってはいけないと言うことはよく知られているが普通の犬に対しての注意は以下の通りである。

・飼い主がいない、食べている、寝ているという時の犬にはさわらない
・飼い主の許可を得て近づくときは、正面からでなく、斜め前方から
・上から犬の頭をなでようと手を近づけるのは危険、まず握り拳を作って，匂いをかがせる
・その後、頭や鼻面でなく、頚の下をなでる
・甲高い声で「キャー、カワイイ」と近づくと、犬は興奮してしまうので、まず、飼い主に挨拶してから許可を得てください。
・じっと犬の目を見ない一敵意をもていると思われてしまう

犬に対する理解がなければ、盲導犬に対する理解なども生まれるわけがない。犬に対する理解とは、単にかわいがるだけでなく、人間と共に社会生活を営んでいる以上、それなりのしつけを施す事から始まる。問題のある犬なんてめったにいない、生まれつき悪い犬なんてそうそう見かけるものではない。問題があるのは人間の方である。犬のような人間というと侮辱と思われるだろうか。しかし私には、誠実、正直、悪意のなさ、明朗、単純(いい意味で)、活発といういい意味でしか思い浮かばない。

犬が人間よりずっと劣った動物だなんてとんでもないと思う。犬嫌いの人、犬をあたたかい目で見てあげて下さい。犬に興味のない人、犬を好きになって下さい。犬好きの人、犬をきちんと理解してあげて下さい。犬に代わってお願いします。



続･台湾の公園にて

星期二班　川端英一

中国語を学ぶ会･台湾旅行の最終日の朝、美麗華大飯店８階の部屋のカーテンを開けると、今朝は雨が降っていない。眼下の大きな、榮星花園公園の木々の間から、グループで体操、気功等をしている人達が見える。あいにくの雨天続きのため、まだ公園へ行ってなかったので、朝食後散歩しに行く事とした。公園には、名前のとおり真っ赤な花園があり美しい。

公園の一隅の林の中で、社交ダンスを踊っている人たちが居り、練習後に揃って食べるのか大きな鍋でお粥を炊いているのが面白い。ここも日本と同様、女性の方が多い様だ。

見ていると歯切れのよい探戈（タンゴ）の調べが流れ、インターナショナルのステップで踊るカップルもいる。

ベンチで休憩中の男性に思い切って、ゆっくりと日本語と北京語で自己紹介と希望を伝えてみた。探戈、華爾茲（ワルツ）とか侖巴（ルンバ）とか筆談する方が困難なので止めたのも功を奏して、一人の女性を紹介して戴いた。大変ダンスの上手な方で、土の上にもかかわらず床の上で踊っているように身が軽く、また、寸分の狂いもないフォローに感心した。

一瞬、ここが台湾なのか日本なのか分からなくなるような気がした。

言語にも世界共通語があれば、国境を越えて楽々とコミュニケーションが出来るのであろう。

空港への出発時間も間近に迫っており、一曲だけで、挨拶もそこそこに別れを告げなければならなかったのは心残りであった。

楽しい経験をさせて戴いた榮星花園・舞蹈愛好會の方々に感謝している。

台湾旅行に参加して

星期三班　蜂屋和男

今回の台湾旅行は「中国語を学ぶ会」主催の台北４日間の旅で、参加人員は 10 名（男 6 名　女４名）期間は 1998 年 11 月 26 日～29 日の三泊四日でした。

実は、私は 1991 年７月～1993 年８月末まで台北市で仕事をしていましたので、6 年ぶりの再訪で、私にとっては懐かしい台湾旅行でした。

その当時の思い出を書きます。

台湾に来る前は、生活の違い、治安の不安などＯＢの人達に色々とアドバイスを受けて来ましたが、実際に現地の人達と一緒に生活し、仕事をしてみると何の不安もなく過ごすことが出来ました。しかし、道路は車が優先なので歩行者優先の日本的な考えで横断していると、車が進入し交通事故に遭いそうになる事が多々あった。その都度頭にきましたが『ここはよその国』だと自分に言い聞かせ、環境に慣れるように努力しました。

仕事上で困ったことは、やはり言葉です。自分の考えていることが相手に充分に理解してもらえず、行動範囲が狭くなり苦労しました。現地の人達と一緒に仕事をする中で一番強く感じたことは国民性、文化の違いです。自分の得になることは一生懸命取り組むが、自分の得にならない組織活動はうまく出来ないと思いました。例えば中国人は、一人でバケツで水を汲む場合は二杯汲んで来るが、二人の場合はバケツ一杯を二人で汲んでくる。三人の場合は誰も汲みに行かないと本で読んだが本当にそうだと思いました。

実例を書いてみましょう。現場で作業する場合、帽子を被る様に決められているで、何故被らないのか聞くと「暑いから被らないのです」「安全上危険だから帽子を被りなさい」と注意すれば「暑いのに帽子を被るとイライラし怪我をする」という返事です。又、会議で問題解決方法を指導する場合、解決方法をどの様にしたらよいかと追求すると「私はこれ以上の事は出来ない，貴方がやって下さい」と言われ、「貴方は課長でしょう」と言えば「ここは台湾ですよ、日本と同じレベルにするならば日本と同じ環境、同じレベルの機械、賃金も同じにして下さい」国民性の違いとは言え管理監督者がこのレベルなので技術指導には苦労しました。しかし仕事をはなれるとみんな良い人達で、私生活は良く面倒を見てくれました。

6 年前の仕事の事を書きましたが今では改善されていると思いたいのですが。

次ぎに台北市内の変化を書いて見ます。

1. 市内を走るタクシーの車の色が全車黄色に統一された。運転は以前に比べ無謀運転が少なくなった。しかし、初めて台北市内をタクシーに乗った人はこわいと思います。
2. オートバイ（50cc）の運転、ヘルメット未着用運転でしたが、現在は全員が着用し運転している。又一台に三人、四人、五人乗りが見られたが現在は違反なので見かけなかった。
3. バスは専用道路が出来たので道路が混まなくなった。
4. 道路にゴミが見当たらない。以前は Pm7:00 頃になると歩道にゴミが山と積まれていたが、夜中にゴミを回収するので朝はきれいになっている。

まだ以前に比べると改善された事がありますがペンを止めます。

次ぎに今回の台湾旅行での思い出を書きます。

1, 私の台湾朋友との再会

実は今回の旅行はフリープランなので、旅行する前に以前台湾で一緒に仕事をした曽さんに電話、手紙、FAX（传真）などで連絡し、予定を立て案内をたのみました。彼は４年前に停年し現在は中国广东省中山市で仕事をしています。私達の旅行日と同じ時期に帰国の予定、ちょうど良い日程なので２日間案内してもらいました。３日間の予定でしたが、滞在３日目は子供さんの日本でいう結納日と重なり案内してもらえなかったが、翌日おくさん（太太）と二人で見送りに来てくれた。別れはつらかったが、又近いうちに台湾に来ますからと約束し別れた。

2. 故宮博物院で米国人との出逢い

台北市３日目は自由行動日、女性４名は花蓮市にある太魯閣峡谷に日帰り観光、川端さんは台北市内の友人の家へ出かける。残り５人は故宮博物院に見学に行くことになりました。テーマの前に故宮博物院を簡単に説明します。5000 年の歴史と文化の芸術の殿堂であり、フランスのルーブル、アメリカのメトロポリタン、ロシアのシルミタージュと共に、世界四大博物館の一つに数えられている。国宝級の文物が 70 万点あまり所蔵されている所です。

川合さんと二人で巻物の文章を読みながら（内容は理解できない）「これは日本では室町時代それとも鎌倉時代に書かれた書物かなあ」と話していたら、後ろから日本語で「これはそれ以前に書かれた書物ですよ」と言われたので、振り返って見ると米国人であった。日本人よりもきれいな日本語に二人はまずびっくり、その上日本の歴史にくわしいのに又ビックリ……中国の歴史もくわしいのに又ビックリ。なんでこんなに日本・中国の事を知っているのかとたずねると「私は日本で生まれ、日本で育った」と言われた。「今日は仕事で台湾に来たの、休日なので故宮博物院に見学に来たのです」と言われた。飾ってある品物を一つ一つよく日本語で説明して下さり、中国の歴史を良く知っているなあと二人で感心しました。何故あんなに知っているのかなあと二人で考えた結果、陳列物の下に中国語と英語で説明されていたのである。

それにしても、日本の歴史・中国の歴史を良く知っている米国人との出逢いであった。

3, 台湾人ガイドに見られた私

故宮博物院で陳列物を見学中、私達の横で 50 代の二人の日本女性が見学しながら「私達の台湾人のガイドは日本語が下手で説明されても良く理解できない」と話していた。その言葉を耳にした川合さん、私達の台湾人ガイドさんと私を指さしながら「この人は日本語が上手ですよ」と言うと、その女性は「それは良かったですね」と言うので、私は「そうじゃないんです」と言えなくなってしまった。旅行中は日本語の上手な台湾人になってしまった。

まだまだ体験、思い出がありますが長くなりますのでこれで終わりにします。最後に今回の旅行は楽しかった思い出が多く残りました。再度行こうと決心し、次回台湾に行く時まで中国語が耳で聞いてわかるよう又話せるよう、星期三班で勉強するつもりです。

上 海 生 活 雑 感

星期三班　小林かほる

上海に来てからはや３ヶ月が経ちました。「中国語を学ぶ会」の皆様も勉強に励んでいらっしゃることと思います。私は中国へ来るのはまったく初めてなので、先入感も何も持たずに中国で最も経済活動の活発な都市上海に住めることは、とてもラッキーだと思っています。

上海は今、日本の高度成長時代を思い起こさせるような建築ラッシュで、古い租界時代の住宅を取り壊したあとの空き地には瓦礫とゴミがうず高く積まれ、それを隠すための塀には広告が所狭しと描かれています。きたなくて埃っぽい街角を曲がると、突然洒落た高層ビルの立ち並ぶ通りがあったり、不思議な町だなと歩くたびに思います。

スーパーで中国人はワゴンに買い物を山のように積み上げ、気前よく１００元札を出しては買い物をしています。バブル時代の日本のスーパーがそのままタイムスリップして来たような光景です。現地の人々は未来に対し自信と希望を持ちとても楽天的ですが、バブルを経験した者にとってはどこか危なっかしい気がしますが……。

学校では、私は日本語のみで授業をしますし、学内の事務連絡は英語だけで済みますので、あまり中国語を使う必要がない生活をしています。しかし、少しでも中国語が話せるようになりたいと思いますが、学生たちに話したい時には自分の語学力では役目が果たせず，今日もまた、つい英語で用を足してしまうような具合です。

しかし不思議なもので、中国語単語とか文法とか、本で勉強していてなんとなくスッと頭に入るのです。やはり毎日中国語を耳にしているのは強い！と思ったりします。

中国の生活にも少しずつ慣れ、バスに乗って出かけたり、あちらこちらと出歩くようになって、やはり中国語が話せたらと痛切に思うことが多くなりました。例えば、野菜を買う時なども、言い値で買ってしまいボラれているという印象がぬぐえません。　上海生活も３ヶ月となるとさすがに慣れてきて、車がどんどん走る道路を渡ることも平気になってきました。

一見無秩序に見えた交通もそれなりにルールはあるもので、それを飲み込んでしまえば恐れることもないと知りました。

物の値段にしても、値切るという前提に立っていると考えれば一見とんでもないような値段も納得がいきます。

時間の感覚についても、一分、二分でキリキリする日本人は、日本の交通網が世界的に見てもトップクラスの便利さにあることに感謝すべきだと思うようになりました。

とに角中国は広い分だけ富の地域格差も大きく，沿海地域の人々は、中国は先進国の仲間入りしたと信じているようですが、内陸は発展途上国以前とう状態のようで、一層わかりにくい国という印象を深くします。しかし人々はたくましく、学生達も暖房のない寒い部屋で寝起きし、これまた暖房のない教室で夜遅くまで勉強する生活を一向苦にした様子もないようです。「寒くて大変でしょう」と言うと、「沢山人が居ると寒くない」とケロッとした顔で答えます。

上海生活は、見る物聞く物不思議で面白く、またハッとさせられることも多く、こんな経験の出来るチャンスに恵まれたことを本当にありがたいと思っております。是非上海に来てこの町を見てくださいと多くの人達に伝えたくなります。

今年の上海は異常気象ということで暖かい日が多く、いろいろ用意してきた冬物の出番があまり回って来ません。しかし、もうすぐ厳しい冬がやって来ます。厳しい季節を上海の人々がどう過ごすのか、また楽しみです。

この文章は小林さんから川端さん宛てに届いた手紙を抜粋したものです。
小林さんの住所は　上海市广灵一路 410 号 上海外大专家楼 403 室 です。

荆轲刺秦王(jīng kē cì qín wáng)

これが今注目を集めている映画「始皇帝暗殺」の原題である。短期間のうちに中国を統一した秦の始皇帝は、５０００キロに及ぶ長城を構築、謎の皇帝陵の造営、詩経や尚書を焼き棄て儒者たちを穴埋めにした焚書坑儒（ふんしょこうじゅ），咸陽（咸阳 xián yáng）の都に阿房宮と称する大宮殿の建築、法律・文字・貨幣・度量衡の画一などなど、善悪はさておいて、後世に伝えられる彼の偉業は数限りない。

とは言っても、なにしろ二千数百年前のことだから、これらの情報がどこまでが真実でどこからがフイクションなのかは判らない。

さて時は紀元前５世紀から３世紀にかけて中国は群雄割拠・弱肉強食の状態だった。やがて魏・趙・韓・斉・秦・楚・燕の七雄と呼ばれる国々に統合され、いわゆる戦国時代を迎えることになる。　我が国の縄文から弥生初期頃の時代である。

七雄の一つ秦の起源ははっきりとはしないが、その先祖は北西辺境の遊牧民だとも言われている。この秦をしっかりした中央集権国家に仕上げたのは第２５代の王、孝公である。孝公は都を現在の陝西省（shǎn xī shěng ）の咸陽市の付近に定め、耕織（男子は耕作女子は紡織）を奨励、法令を施行し、富国強兵につとめ、列強に劣らぬ国家の建設に努めた。

それから約１００年の後、弱冠１３才で王位についたのが「政」である。この政こそが後に「始皇帝」を名乗り、中国史上初の統一王朝を実現した人物である。

始皇帝は強力な軍団を駆使してまず韓（韩 hán）を併合、次いで燕、趙、魏、楚（yàn　zhào wèi chǔ）を撃破し、最後に残った山東半島の斉（齐 qí）を滅ぼし遂に戦国時代にピリオドを打ったのである。

さて、話題を映画に戻そう。 この电影(diànyǐng)は構想８年、製作費６０億円、製作期間３年という大作。 監督（导演 dǎo yǎn）は 陈凯歌（chén kǎi gē）趙姫を演ずるヒロイン（女主角 nǚ zhǔ jué）は巩俐（gǒng lì）　＜巩俐の巩の下に革の字を書くのが正しいのですが中国語ワープロに入っていないので悪しからず＞ 。 彼女は「红高粱」で鮮烈なデビューを果たしカンヌ映画祭でグランプリを獲得、数々の優れた映画に出演し、その美しさと演技力で世界中で知られる大女優である。 始皇帝を演じるのは李雪健（lǐ xuě jiàn)、孤高の暗殺者荆轲は北京电影学院出身の张丰毅（zhāng fēng yì）が演じている。

物語の舞台は紀元前３世紀の戦国時代、全国統一を目指す始皇帝、彼を愛する趙姫、始皇帝暗殺を企てる荆轲、三者三様の生きざまを中心に歴史ロマンが繰り広げられる。詳しいストーリーは电影院でご覧うじろ。

コンピューターグラフイックスなどを使って撮影した映画が多いなかで、この「荆轲刺秦王」は実写が売り物だ。秦の宮殿、咸陽宮は東京ドーム６個分の大きさで再建され、建築費は２０億円とか、紫禁城の太和殿を思わせるような壮大な作りである。

疾走する騎馬軍団、燃え上がる城郭、逃げ惑う民衆、激しい戦闘シーン、耳をつんざく蹄の音と戦士達の雄叫び、この圧倒的な迫力は実写ならではのものだ。

ちよっと物足りなく感じたのは始皇帝そのものについての描写である。ある本の記述によると始皇帝の人となりは「蜂のような目に、山犬のような声の残忍な人柄」とあり、冷酷非情の人物として紹介されている。その一端は表現されているものの、この电影は題名どおり刺客荆轲と趙姫・秦王とのからみを描いたものだから致し方ない。

それよりも、台詞は短いフレーズでゆっくりと話すところが殆どなので、我々中国語を学ぶ輩にとっては嬉しいことにかなりの部分が听得懂。

３時間に近い長作なので老爺心ながら御覧になる方は事前にトイレに行っておいたほうがよさそうですよ。それではサイナラ。　　（神　山）

我 的 爱 好

星期四班　落合一正

我觉得大家都有一些爱好。 我也有一些爱好。 其中之一是养花。 我把养花当做生活中的一种乐趣(lèqù). 在院子里我养各种各样的花，包含(bāohán)兰花与几种山野草。 从春天到夏天都有花开院子里到处都是花草。

我特别喜欢养喇叭花(lǎbahuā),别名牵牛花(qiānniúhuā)。 春天到了,我的心里喜气洋洋的. 今年打算培植(péizhí)什么样的。

端午节过了我在小小的花盆儿里种下了喇叭花子,每天去浇(jiao)一次水，继续(jìxù)这样做，过了一个星期左右花子就出苗(chūmiáo)。 等待过几天把这个新苗换栽(huànzāi)更大的花盆儿里,有时候施肥(shīféi)。 以后一天比一天长大，我给它搭个架子让花蔓攀(mànpān)在架子上。

到了7月下旬，梅雨过去天气更热了。 叶子越长越密，长了许多花骨朵(huāgūduo)。 不一会儿就开始开花。 开了的花可漂亮，看样子又娇嫩(jiāonèn)又鲜艳(xiānyàn)，就像一个个小喇叭，有红的紫的，有白的。 这时候天亮了,我心里美滋滋(měizīzī)的，起床就走到院子里欣赏(xīnshǎng)漂亮(piàoliang)的花。

原稿募集のお願い

次回の発行は４月頃を予定しています。原稿の締め切りは３月２５日。なるべく早めに準備して応募してください。

編集後記

「にいはお」第４号も皆さんのご協力のお陰で無事に発行することができました。

皆さんからたくさんの原稿をいただき従来の８頁から１２頁へと新年号にふさわしい大幅な増頁となりました。

「にいはお」は会員の相互交流の一手段として発行し、読んでいただいているものですから、これからも気軽に原稿をお寄せいただきたいと思います。

今、巷で流行している絵手紙の先生が「下手でいい、下手がいい」と言っています。私達の「にいはお」も素人が作っている当会の会報ですから、文章の内容や表現の方法などにこだわらず気楽に投稿してしてください。全員参加の発表の場として多いに利用して行こうではありませんか。